

2025

KYOJO CUP
RACE REPORT

Rd.2

7.18[fri] - 20[sun]

[place] 富士スピードウェイ (静岡県小山町)

[weather] sat 晴れ / sun 晴れ

[spectators] 53,400人 (sat 22,900人 / sun 27,300人)

Rd.1 MAY 10-11

Rd.2 JUL 19-20

Rd.3 AUG 16-17

Rd.4 OCT 11-12

Rd.5 NOV 08-09

FUJISPEEDWAY



TOM'S

スーパーフォーミュラと併催のRd.2 斎藤愛未がスプリントで優勝を飾る。 バートン・ハナも最後尾から追い上げ 8位入賞。

QUALIFYING/SPRINT

2025 KYOJO CUP Round2 は、スーパーフォーミュラと併催で行われた。19日（土）朝の予選では練習走行から好調だった斎藤愛未が、最終アタックでライバルを0.1秒逆転し、今季初のポールポジションを獲得。バートン・ハナも4番手と好位置につけた。10時45分からのスプリント（10周）では、斎藤が終始冷静なレース運びをみせてトップチェッカーを受けた。他車のグリッド降格ペナルティにより3番グリッドからスタートしたハナは序盤から表彰台争いを展開するも、5周目のダンロップコーナーで他車と接触しフロントノーズを破損。そのまま戦線離脱を余儀なくされた。

QUALIFYING

●天候：晴れ ●気温：26℃ ●路面温度：35℃

SPRINT

●天候：晴れ ●気温：31℃ ●路面温度：45℃



FINAL

●天候：晴れ ●気温：33℃ ●路面温度：49℃

スプリントを1位で終えた斎藤は、ポールポジションから12周のファイナルをスタート。1周目に起きた後方でのアクシデントによりセーフティカーが導入されたが、4周目の再開時にライバルの先行を許してしまい2番手でレースを進めていく。逆転を狙って最終ラップまで攻め続けたが、トップ奪還は叶わず2位でレースを終えた。

一方、スプリントでの戦線離脱で最後尾スタートとなったハナは、1周目に6ポジションアップすると、その後も次々に前のマシンを追い抜き、12ポジションアップの8位入賞を果たした。



BigBoss W TEAM TOM'S Big Boss W TOM'S KYOJO with AIWIN KC -MG01

1

AIMI SAITO

Driver 斎藤 愛未

予選 1位

スプリント 1位

ファイナル 2位

Rd.2	Qualifying	P1 / 1'45.343
	Sprint	P1 / 1'46.057 <<< Fastest
	Final	P2 / 1'46.753

BigBoss W TEAM TOM'S Big Boss W TOM'S KYOJO KC -MG01

37

HANA BURTON

Driver バートン ハナ

予選 4位

スプリント DNF

ファイナル 8位

Rd.2	Qualifying	P4 / 1'45.746
	Sprint	DNF / 1'46.761
	Final	P8 / 1'46.823



1



ドライバー 斎藤 愛未

開幕戦に比べると落ち着いてレースに臨めました。その影響もありポールポジションが獲れましたし、スプリントもトップでチェッカーを受けられました。ファイナルに関しては悔しい2位になりましたが、レースを振り返ると反省点はたくさんあると思います。いろんな展開が繰り広げられたなかで、その状況にいかに対応できるかが重要な部分でした。今回の私にはそこが足りなかったなと思います。



監督 三浦 愛

当日のコンディションにいかに関わられるかもそうですが、今回はセーフティカーが絡む状況もあったなか、トップと同じペースで走っていて、良いレースを見せてくれたと思います。ここからレベルアップして、この後の3戦でさらに高い次元でバトルを見せてくれるのが楽しみです。本人はめちゃくちゃ悔しがっていましたが、私たちも悔しいです。でも、全力でやった結果です。あとはほんのちょっとした歯車が噛み合うかどうかというところで、今回はライバルに風が向いていたのかなと思います。

37



ドライバー バートン ハナ

週末を通してペースはありましたがスプリントでミスをしたことで、すごく落ち込みました。それと同時に、ファイナルでは絶対にミスをしないと決めてスタートしました。最初は相手とペースの差があると思っていたので、追い抜く時の判断は慎重にしなければいけないと思い、とにかく余裕を持って1台1台抜いていくことに集中しました。正直もう1周あれば、目の前の2～3台を抜けたかもしれません。次のレースでは最初から最後までペースを維持して、いつか表彰台に上げられるように頑張りたいです。



監督 伊藤 大輔

スプリントの時から速さはありませんでしたが、ブレーキングでミスがあり接触という結果に終わりました。ファイナルでは、接触せずにゴールをすること、1台ずつ冷静に抜いていくことを目標にしていたので、彼女の成長には我慢しながら走っていたところがありますが、目標をきちんと達成できたと思います。次の目標は、この速さを結果に繋げること。まだ伸び代はたくさんありますし、レース中のバトル感が身についていけば、本当に速いドライバーになると思います。彼女の成長をみなさんも見守ってほしいです。

熊本トヨペット

カロしず
 カローラ静岡